

# 2

## トピックス

### TOPIC.1 環境関連受賞

#### 第21回環境コミュニケーション大賞受賞 ～環境配慮促進法特定事業者賞～

本学は、環境コミュニケーション大賞★[環境報告書部門]「環境配慮促進法特定事業者賞」を受賞しました。

講評では、『環境マネジメントが詳述されており、環境目標に基づく具体的な取り組みの達成度が詳細に開示されている。加えて、大学のコアコンピテンスである知の生産に焦点があてられており、国立大学法人として全体的に非常に完成度の高い環境報告書である。一方で、数値目標の設定によって管理されている取り組みがやや少なく、結果として定性的な記述が多い点があるため、これら

の改善が今後望まれる。』と評価を頂き、5年連続9回目の受賞となりました。

平成30年2月21日、品川プリンスホテルメインタワーにおいて表彰式が開催され、「環境報告書」の作成に携わった環境ISO学生委員会の学生、大学関係者が出席し、全員で受賞を喜びました。



環境ISO学生委員会と関係者(H30.02.21)



表彰式(H30.02.21)

#### 第3回サステイナブルキャンパス賞 建築・設備部門受賞



本学は、平成29年11月17日に愛媛大学にて開催された、サステイナブル★キャンパス推進協議会(CAS-Net JAPAN)2017年次大会において、スマートキャンパスの取り組みが評価され、「第3回 サステイナブルキャンパス賞 建築・設備部門」を受賞しました。

サステイナブルキャンパス賞とは、サステイナブルキャンパス推進協議会会員による優れたサステイナブルキャンパス構築に係る取組事例を表彰制度によって顕彰し、会員の意識を高めると共に、協議会の活動を推進し加速させ、持続可能な環境配慮型社会の構築に貢献することを目的に平成27年度から始まった表彰制度です。

表彰は3部門に分かれ、「第1部門:キャンパスのサステイナビリティに配慮した建築・設備部門」「第2部門:キャンパスのサステイナビリティに配慮した大学運営部門」

「第3部門:キャンパスのサステイナビリティに配慮した学生生活・地域連携部門」のうち、本学は第1部門を受賞しました。



受賞大学の集合写真(H29.11.17)

## 緑化活動



### ■ 環境・情報科学館屋上緑化

環境・情報科学館の屋上は、平成24年7月より一般開放しています。屋上緑化は、建物の冷房負荷の低減と温室効果ガスの吸収を行うと共に、一般開放に伴う視覚的な環境保全意識の向上を図ることを目的としています。

観賞用エリアには新たに7種の植物を植栽し、四季折々の植物を楽しむことができるようになりました。

また、屋上の植物について解説するポスターを作成し、屋上に来た方々が植物に親しめるようにしました。



屋上植物整備(H30.04.03)

### ■ 落ち葉コンポスト

本学構内には多くの樹々があり、緑あふれるキャンパスですが、その反面落ち葉が多いために側溝を詰まらせるなどの問題があります。この落ち葉を焼却処分せずに回収し、資源を循環させるために落ち葉を堆肥にして活用する活動(コンポスト活動★)を、教養教育校舎2号館の裏で行っています。現在はキャンパス環境整備室と生協の方に落ち葉を回収して頂き、共同でコンポスト活動を行っています。次年度からは一層協力体制を整え、より効率のよい活動を行い、堆肥の生産量を増やしていきます。また、1カ月に1度、切り返し(落ち葉をかき混ぜて、その

中に空気を入れる作業)や、水まき、米ぬかの投入を行うことにより、微生物の活動を活発化し、落ち葉の堆肥化を促進させています。完成した堆肥は、当委員会が管理している花壇に利用して学内に還元しています。そのほかにも平成29年度は、20Lの土のう袋で附属学校園に30袋を譲渡しました。



コンポスト切り返し(H29.04.28)

### ■ 学内の花壇

コンポスト活動によって完成した堆肥の利用、および学内の景観美化を目的として、平成21年度に附属教職支援センターの前の荒れ地を整備し、花壇を作りました。

花壇の花は年2回(6月頃と12月頃)植え替えをし、「夏季の花壇」と「冬季の花壇」を作ります。デザインは、植え替えの度に当委員会生や学生から募集しています。

定植後は、毎日水やりを行い、適宜雑草抜きも行います。コンポスト活動ででき上がった堆肥を投入すること

で、資源循環を促します。

さらに、活動を紹介するポスターを花壇の前に掲示することで、学内の景観美化にとどまらず、学生・教職員の環境マインドの向上が期待できます。



花の定植(H29.05.19)

## 広報活動



### ■ ウェブサイト

当委員会の活動を学内外へ広報するために、平成18年度からウェブサイトの運営を開始しました。毎月のイベントの告知を行ったり、イベント後には「メンバーによるブログ」をイベントに参加した学生委員が投稿しています。特に注目してほしい内容は「トピックス」や「まもるの

ひとこと」にも掲載しています。

平成26年度からは海岸・干潟清掃のウェブ予約システムを導入し、ウェブサイト上での清掃活動の予約が可能になりました。

### ■ Twitter

活動紹介やイベントの告知・報告をリアルタイムで発信するため、平成28年9月からTwitterの運用を開始しました。

主にイベントの告知や海岸清掃の参加者募集の呼びかけを行っており、更新頻度は週に1~2回です。また、緑化活動などの日々の活動や委員会紹介も写真と共に投稿し、気軽に当委員会の活動を知らせることができるようになりました。学内の掲示物への当委員会のTwitterア

カウントのQRコードの掲載、イベントでのTwitterアカウントの紹介などにより周知活動を行っています。



Twitterによる情報発信(H30.06.29)

## MIEUポイントの拡大に向けた新たな取り組み

平成29年度からは、環境活動に理解と協力をして頂

る企業を募り活動の拡大を図りました。



MIEUポイント協賛企業募集ポスター



MIEUポイント協賛企業募集ポスター

### ■ 企業協賛の実績

企業協賛「第1弾」は、県内の菓子製造業「株式会社マサヤ」から、「おにぎりせんべい」300個をポイント交換品物として寄付頂きました。

今回の協賛に対して、平成30年5月9日に、感謝状贈呈式を行いました。また、平成30年度も継続して、「おにぎりせんべい梅しそ」300個の寄付を頂きました。

今後も、学内の環境活動を見える化するMIEUポイントへの協賛企業を募集します。



MIEUポイントコラボ企画ポスター



寄付されたおにぎりせんべい300個 (H29.12.05)



感謝状贈呈式 (H30.05.09)



感謝状贈呈式 (H30.05.09)

## 声

VOICE Vol.1

総合情報処理センター | 松原 伸樹(技術員)

MIEUポイントのサイトにログインした際、株式会社マサヤの「おにぎりせんべい」に交換できると知り、それから積極的に環境活動をするようになりました。キャンパス内の清掃を1時間程度丁寧に行うと、50ポイントのMIEUポイントが獲得でき、そのポイントで「おにぎりせんべい」1つと交換できます。キャンパスクリーン作戦ならなんと200ポイント!「おにぎりせんべい」4つと交換できました。

ポイントがたまればいろいろな商品と交換できるありがたいシステムですが、あまり知っている人がおらず少し残念に思っていたので、総合情報処理センターのトップ

ページにリンクを張り、センター内の掲示板にもポスターを張りました。今後、MIEUポイントの利用者が増えていけばと思います。

欲しい物目当てで始まった環境活動ですが、パソコンのモニターを電源オフにするだけでも環境活動になるなど、身の回りのことでもできることに気づき、環境活動にも興味を抱くようになりました。今後もMIEUポイントを続けていきたいと思っています。



## 教職員の社会貢献活動



本学における教職員の社会貢献活動を表す指標として、各教員の県や市町村などの環境審議会、環境影響評価委員会、リサイクル製品認定委員会などの委員の兼任件数を調査した結果を表1に示します。また、環境関連共同研究・受託研究・受託事業の研究相手方の延べ件数を

表2に示しました。これらのデータから、各学部の特徴や専門性を活かし、特に県内における環境関連委員会などにおいて専門知識を提供していることが分かります。研究面においては県内外、官民に関係なく幅広く社会貢献活動を活発に展開していることが分かります。

表1:各学部教職員の環境関連委員会・研究員参画数および参画先

学部	人文学部	教育学部	医学部	工学部	生物資源学部	地域イノベーション学 研究科	教養教育院	その他	合計
件数	19	21	7	57	40	0	14	10	168

参画先	省庁	三重県	他県	三重県内市町	他県市町村	各種法人	企業	大学	その他	合計
件数	5	51	7	61	5	24	9	1	5	168

表2:各学部教職員の環境関連共同研究・受託研究・受託事業数および研究相手方

学部	人文学部	教育学部	医学部	工学部	生物資源学部	地域イノベーション学 研究科	教養教育院	その他	合計
件数	1	23	78	4	19	4	1	3	133

研究相手方	国・省庁	公共団体(県内)	公共団体(県外)	独立行政法人	企業(県内)	企業(県外)	その他	合計
件数	2	13	2	8	35	64	9	133

## 学生を取り巻く地域の交通安全環境改善



学生総合支援センター学生生活支援室では、学生生活の充実のためにさまざまな支援活動を行っています。学生の皆さんの交通安全環境を確保する活動もその一つですが、一方では、登下校時の通学マナーが悪く、近隣地域住民の方々に大変な迷惑をかけている実態があります。前後期の授業開始時期に当支援室が行う交通安全指導は、学生の安全を守るだけでなく、通学マナーを向上させ、学生を取り巻く地域の安全環境を改善していくことを目的に行っています。毎回、ピアサポーター★学生委員会の学生を中心とした多くの学生ボランティアが参加し、教職員と協働で指導に当たっています。近鉄江戸橋駅から国道23号線の新江戸橋、江戸橋北詰交差点、大学病院前交差点、三重大学前交差点などラッシュによる危険度

が増す箇所に人員を配置し、自転車運転マナー（自転車レーンを通る、イヤフォンを外す、傘さし運転をしない、新江戸橋は自転車を押して渡る）や歩行マナー（歩行者レーンを通る、道に広がってしゃべりながら歩かない、信号を守る）をプラカードや口頭で注意を促しています。また、津警察と合同で実施する日を設けて、専門的な立場からも監視・指導を頂いています。交通安全指導は一定の効果が上がっている一方で、マナー向上が課題です。

交通安全マナー向上の啓蒙活動として、全学学生団体交通担当者会議（ピアサポーター学生委員会、大学祭実行委員会、環境ISO学生委員会、体育会および生協学生委員会等）を平成30年度に立ち上げ、恒常的なマナー向上を図っていきます。



三重大学前交差点



大学病院前交差点



江戸橋北詰交差点



全学学生団体交通担当者会議

★のマークの解説はP72、P73の用語解説をご覧ください

## 第24回 Tri-U国際ジョイントセミナー&シンポジウム2017



平成29年10月23日から27日に本学において、第24回Tri-U国際ジョイントセミナー&シンポジウム★を開催しました。

中国、タイ、インドネシア、ミャンマー、ロシアの6カ国11大学から教員40名、学生114名が参加し、学内で研究発表と文化交流を行いました。北勢、伊賀、伊勢志摩、東紀州の各地域サテライトで実施したスタディツアーでは、それぞれの地域の活性化に向けて外国人の視点か

らの課題の抽出、解決策の提案に取り組み、発表会を行いました。

本学の教員による発案から始まった本会議も20年以上が経過し、今では良き伝統を残しつつ新しい時代の変化に対応し、地域のニーズに応えることができる人材の育成に資する学術的活動であることが求められています。本学は次年度以降も、海外の大学と協力しグローバル人材の育成を目指していきます。

### ■ 第1日目(10月24日)

三翠ホールにおいてオープニング・セレモニーが行われ、駒田 美弘学長から各国から集まった学生たちへ歓迎の挨拶、続いて大野 照文三重県総合博物館長による基調講演が行われました。その後、「人口・食料・エネルギー・環

境」という基本テーマと、開催校設定のテーマ(本学設定のテーマは「Children」)に分かれ研究発表が行われました。

### ■ 第2日目(10月25日)

北勢、伊賀、伊勢志摩、東紀州の4つのグループに分かれ、スタディツアーを実施しました。



四日市公害と環境未来館



伊賀上野城



志摩観光ホテル



馬越峠道

### ■ 第3日目(10月26日)

「人口・食料・エネルギー・環境・子供」の5つのテーマに分かれ、口頭発表およびポスター発表を行いました。

前日のスタディツアーのワークショップでは、限られた

時間内でさまざまな視点からアイデアを出し合い、活発なディスカッションを行いました。

### ■ 第4日目(10月27日)

スタディツアーで得た内容と成果について、地域創生をテーマにプレゼンテーションを行いました。

クロージングセレモニーでは、テーマごとにベストポスター賞、ベストプレゼン賞が表彰され、堀 浩樹副学長(国際交流担当)から閉会の挨拶が行われました。

最後に、駒田 美弘学長より次回の開催校を務めるチェンマイ大学Nat Vorayos工学部長へフラッグが手渡され、本学で開催された第24回Tri-U国際ジョイントセミナー&シンポジウムが締めくくられました。



第24回 Tri-U国際ジョイントセミナー&シンポジウム2017 集合写真(H29.10.24)

## キャンパスクリーン作戦



平成16年度から毎年、環境美化活動の一環として「キャンパスクリーン作戦」を実施しています。この活動は、教職員・学生および本学に常駐する委託業者が参加して、上浜キャンパス内の道路や植え込み、側溝などの清掃活動を行うものです。

開学記念日(5月)、オープンキャンパス(8月)、学園祭(11月)、



ポスター

卒業式(3月)に向けて毎年4回実施しており、学内行事として定着しています。平成29年度は2,044名の参加があり、ごみ・落ち葉・雑草などごみ袋799袋を回収処分しました。



清掃活動(H29.07.21)



清掃活動(H29.11.27)

## 大学の省エネルギー・スマート化に関する中国との交流会



中国では大学の省エネへの取り組みは国家レベルの重点項目に挙げられています。一般財団法人省エネルギーセンターは経済産業省から委託され、平成30年6月に省エネ普及のための活動支援として、大学の省エネ活動、管理に関する講演会を雲南省昆明市で行い、名古屋大学と三重大学が日本の大学のスマート化について講演し現地での交流を行いました。

このセミナーには大学の省エネの実践の関係者が参加しており、日本の先進的な大学の省エネの考え方と概念、取り組み方法などを先方に提示することで普及を支援する機会となり、併せて日本の大学の優れた取り組みへの認識を

高めることができました。

中国側の主な参加者は国家節能中心、教育後勤協会や教員など79名でした。



セミナーに出席された中国の皆さん(H30.06.21)



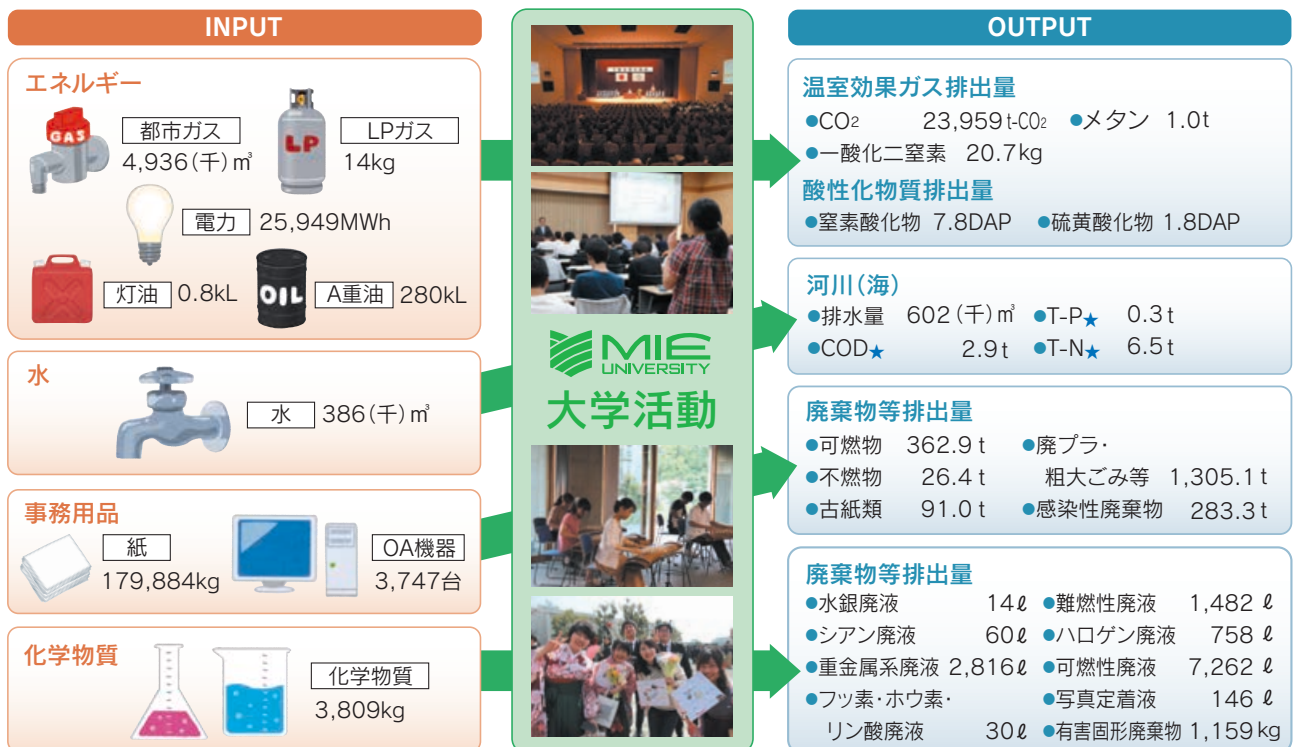
三重大学(坂内客員教授)の発表(H30.06.21)

## マテリアルバランス



環境負荷の削減活動を進めるために、上浜キャンパスの事業活動(教育・研究・診療・社会貢献)に使用する資源・エネルギー量を測定し、発生する環境負荷の種類・量など各種

データの集計・分析を行っています。データを正しく把握することで、省エネ・省資源に努めています。



マテリアルバランス(平成29年度実績)

★のマークの解説はP72.P73の用語解説をご覧ください

# 環境マネジメントシステムの概要

# 12

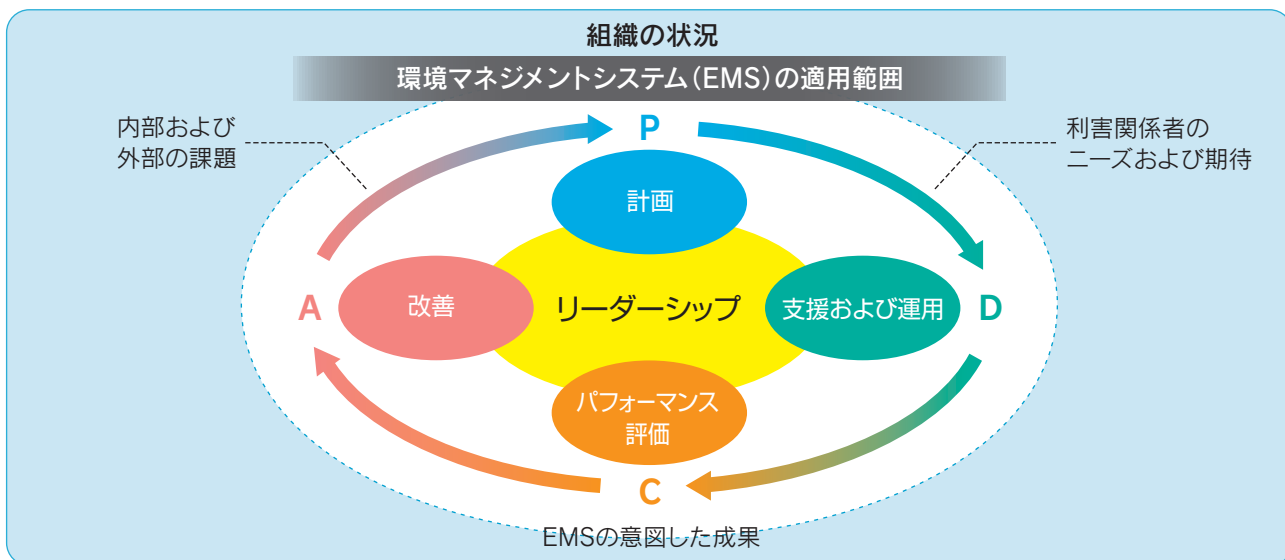
## 環境マネジメントシステムの概要



### ■ 環境マネジメントシステム(EMS)とは

本学では、学長(トップマネジメント)がリーダーシップをとり、大学の意図した成果の「①環境目標の達成、②順守義務への取り組み、③環境パフォーマンス(環境活動の結果)向上」を達成させるため環境の方針(Policy)を定めて、環境目標を設定し、取り組みを実施するための「計画(Plan)」を

決めて「支援および運用活動(Do)」し、「環境パフォーマンス(活動状況)を評価(Check)」したうえで、次の活動へと進むために「継続的改善(Act)」をする仕組み(PDCAサイクル)のことで



PDCAサイクルによるマネジメントシステム

国際規格ISO14001は、平成27年9月15日に2015年版の規格が発行され、本学では平成27年度中に対応の準備を整え平成28年4月から2015年版の規格に合わせた環境マネジメントシステムを構築・運用しています。

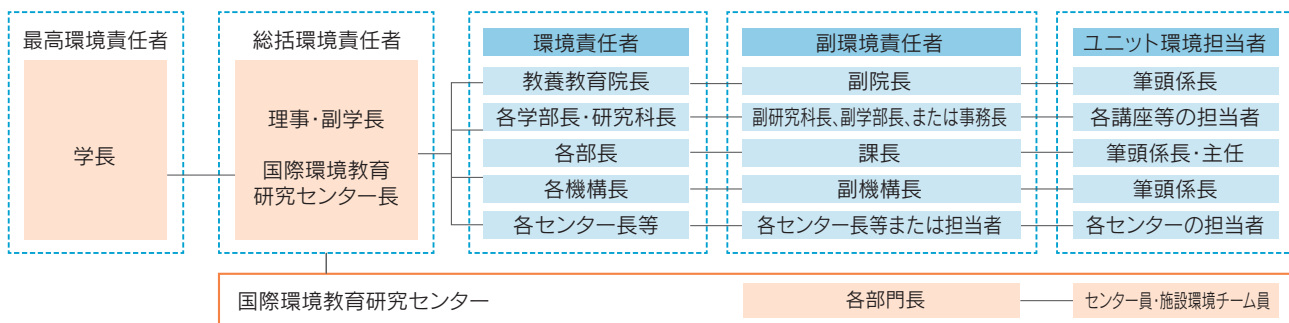
平成29年度の環境マネジメントシステム活動として、環境

方針(P2参照)とそれを達成するため行われた「マネジメントシステム体制(組織図)」「環境目的・目標」「目標の達成状況」「環境内部監査」「外部機関による審査(サーベイランス)」「学長による見直し」の項目ごとに分類し報告します。

### ■ 環境マネジメントシステム体制・組織図 環境リスクマネジメント体制も同組織で対応(平成30年4月1日時点の状況)

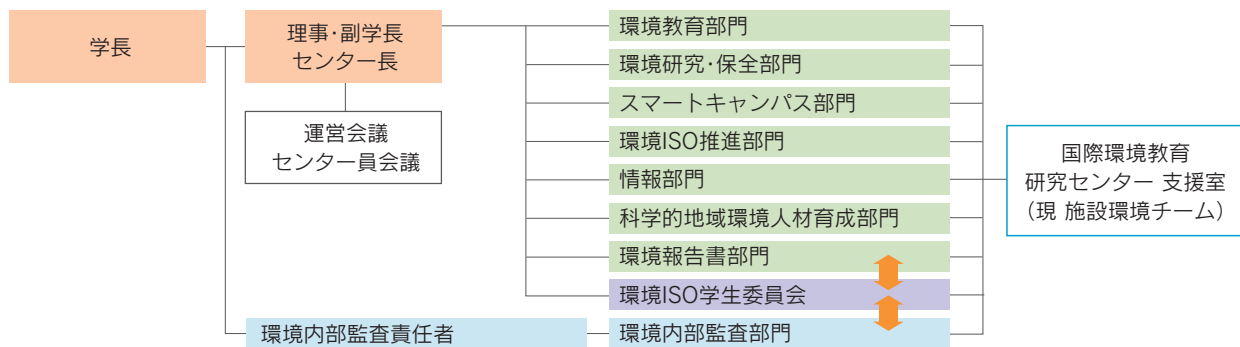
平成29年度の組織体制は、全学組織として国際環境教育研究センターが環境マネジメントの運営管理を行い、総括環境責任者である理事(情報・環境担当)・副学長がセンター長として、各部署から推薦された教職員およびセンター長が必要と認めた教職員34名と環境ISO学生委員会の代表者3名を含めた37名(平成30年3月31日現在)で構成しています。

各部署の活動報告と本学EMSについての具体的な環境活動を協議しています。国際環境教育研究センターは、環境・情報科学館(メープル館)に支援室(平成30年度から施設環境チームに改組)を設置し、学内と学外への環境情報の発信拠点としての役割を担っています。



環境マネジメントシステム体制・組織図

★のマークの解説はP72.P73の用語解説をご覧ください



三重大学国際環境教育研究センター体制

## 環境マネジメントシステムの状況

平成29年度に実施したEMSの主な活動について以下にまとめました。本報告書の関連記事には参照ページを記しました。

### EMSの状況

年月日	活動内容
4月4日	環境ISO学生委員会が全学および各学部の(生物資源・医学部は4月6日)オリエンテーションにて、三重大学や学生委員会の環境への取り組みについて活動紹介を実施。
4月7日	回収・修理した学内放置自転車を留学生20名へ無償譲渡。 <b>P19参照</b>
4月12日～13日	常時設置してある古本回収BOXにて回収した古本を、古本市にて在学生へ無償譲渡。回収した575冊のうち460冊の本を譲渡、リユース率は80% <b>P18参照</b>
4月23日	環境ISO学生委員会が、三重県環境学習情報センターにて「春のキッズエコフェア」にブース出展。
5月8日	『科学的地域環境人材(SciLets)』育成事業のポータルサイトを開設。
5月20日	松阪市の松名瀬干潟にて「AQUA SOCIAL FES!!」を開催。環境ISO学生委員会と地域住民や企業・団体と一緒に清掃の実施。約350人が参加。 <b>P22参照</b>
5月21日、7月16日他	大学に隣接する町屋海岸にて、環境ISO学生委員会と地域住民と地域住民と協働した海岸清掃の実施。(計5回) <b>P22参照</b>
5月22日	チェンマイ大学による本学の環境活動ヒアリング。
5月23日、7月21日他	教職員・学生によるキャンパスクリーン作戦の実施。(計4回) <b>P47参照</b>
5月24日他	環境ISO学生委員会が「エコキャップ」を譲渡。 <b>P19参照</b>
6月	環境関連法規制の順守確認。
6月6日	三重大学「科学的地域環境人材(SciLets)』育成事業フォーラムをアスト津にて、企業・一般の方、また県・市町など行政の方々を対象に開催。
6月14日	東京都内で行われた、「環境保全功労者表彰(地域環境保全功労者表彰)」を受賞。環境ISO学生委員会の多年にわたる活動が認められた。 <b>P7参照</b>
6月30日	環境ISO学生委員会が公立鳥取環境大学学生ISO委員会主催の「JUMP～日本列島を軽くしよう～」に、全国の団体が各地で清掃活動実施。三重県は25.4kg軽くなった。
6月30日、1月26日	環境ISO学生委員会が、北立誠小中学校の4年生に環境学習を実施。(計2回) <b>P22参照</b>
7月10日	教職員・学生対象/省エネルギー講習会「三重大学省エネ積立金制度と省エネ対策」の実施。 <b>P45参照</b>
7月11日、13日	教職員向け「ISO14001規格の改定について」研修会を開催。 <b>P63参照</b>
7月19日～9月12日	平成29年度定期環境内部監査を実施。 <b>P62参照</b>
7月20日、24日他	エネルギー・環境マネジャーキャリア段位制度試験を実施。(計3回) <b>P28参照</b>
8月22日	本学学長と環境ISO学生委員会が、本学の環境活動と今後の課題について座談会を実施。
8月30日	本学と㈱マサヤの環境報告書の意見交換会を実施。
8月29日～9月1日	平成29年度前期環境内部監査員養成研修を実施。学生は集中講義として4日間、教職員は8月31日～9月1日の2日間に参加。 <b>P62参照</b>
9月5日	本学と中部電力㈱の環境報告書の意見交換会を実施。
9月29日	「三重大学環境報告書2017」を作成し、冊子およびWeb上で公表。
9月13日～14日	環境ISO学生委員会が、「第11回全国環境マネジメント学生大会」に参加。
10月1日	環境ISO学生委員会が、三重県環境学習情報センターにて「秋のキッズエコフェア」にブース出展。
10月3日～4日	平成29年度ISO14001サーベイランス審査の受審、認証が継続される。 <b>P63参照</b>
10月5日～6日	常時設置してある古本回収BOXにて回収した古本を、古本市にて在学生へ無償譲渡。回収した377冊のうち303冊の本を譲渡、リユース率は80%。
10月6日	回収・修理した学内放置自転車を留学生19名へ無償譲渡。 <b>P19参照</b>
10月16日～17日	エネルギー・環境マネジャーキャリア段位制度試験の合格証を授与。
10月19日	長浜バイオ大学にて開催された「グリーン購入フォーラム2017in滋賀」にて『科学的地域環境人材(SciLets)』育成事業を紹介。
10月23日～27日	「第24回Tri-U国際ジョイントセミナー&シンポジウム」(5日間)が三重大学にて開催された。『科学的地域環境人材(SciLets)』育成事業について英語版ポスターの掲示、英語版ビデオ講義の撮影などによる事業紹介を行った。 <b>P21、P38参照</b>
10月27日～28日	「みえリーディング産業展2017」にブース出展し、『科学的地域環境人材(SciLets)』育成事業について紹介。
10月28日	環境ISO学生委員会が、松阪市の松名瀬干潟にて清掃活動の実施。約150名の方が参加。 <b>P22参照</b>
10月28日	環境ISO学生委員会が、コープみえ環境活動団体交流会に活動報告。



年月日	活動内容
11月2日	三重大学の人材育成事業の一つである科学的地域環境人材「SciLets」が商標登録された。
11月17日	愛媛大学にて開催された、「サステナブルキャンパス推進協議会(CAS-Net JAPAN)2017年次大会」にてスマートキャンパスの取り組みが評価され、「第3回サステナブルキャンパス賞 建築・設備部門」を受賞。 <b>P6参照</b>
11月18日	環境ISO学生委員会が、岐阜大学で開催された「学生環境会議」に参加。
11月26日	「つ・環境フェア」に環境ISO学生委員会が参加し、「津市環境功労者」を受賞。 『科学的地域環境人材(SciLets)』育成事業の活動について紹介。
12月2日	「四日市公害と環境未来館 環境フェア」にブース出展し、『科学的地域環境人材(SciLets)』育成事業について紹介。
12月7日～9日	「エコプロ2017」にブース出展し、『科学的地域環境人材(SciLets)』育成事業および環境ISO学生委員会の活動について紹介。 <b>P21参照</b>
12月10日	メッセウイング・みえてで開催された「みえ・環境フェア」にブース出展し、『科学的地域環境人材(SciLets)』育成事業および環境ISO学生委員会の活動について紹介。
1月26日	全国ESDコンソーシアム 活動報告会
2月	本学の構成員、学生サークルおよび利害関係者に環境影響調査の実施。
2月13日	「三重らしい環境自治体・企業のSDGsを考える」をテーマに、第1回SciLetsセミナーを開催。参加者数42名(企業、行政、学生、本学教職員)同日にSciLetsアナリスト資格およびSciLetsエキスパート資格認定証を授与。 <b>P59参照</b>
2月19日～22日	平成29年度後期環境内部監査員養成研修を学生向けに実施(4日間)。受講者11名に環境内部監査員資格付与。現在の三重大学環境内部監査員は、教職員198名、学生75名 計273名。 <b>P62参照</b>
2月21日	「第21回環境コミュニケーション大賞環境報告書部門」環境配慮促進法特定事業者賞受賞し、東京都内で行われた表彰式に参加。今回で5年連続となる合計9回目の受賞。 <b>P6参照</b>
2月28日～3月1日	環境ISO学生委員会が、信州大学環境学生委員会の方々と合同合宿を行い、活動紹介やレクリエーションを実施。
3月9日	環境ISO学委員会が、シャープ三重工場にて環境サイトレポート検証の実施。
3月10日	SciLets環境セミナーを熊野会場(熊野市文化交流センター)および尾鷲会場(東紀州サテライト)にて開催。
3月13日～19日	環境ISO学生委員会が「まわれ!!!リユースプラザin三重2017」を開催。13日、16日、17日、19日(4日間)、いらなくなった家具・家電・自転車回収。後日、家具・家電は新入生に、自転車は留学生に譲渡。 <b>P18参照</b>
3月14日	平成29年度最高環境責任者による見直しの実施。 <b>P64参照</b>
3月17日	ユネスコスクール研修会2017およびエネルギー環境教育成果報告会
3月27日	第2回SciLetsアナリスト資格認定証を授与。

## 第1回資格認定証授与式開催

平成30年2月13日、環境・情報科学館1階ホールにおいて、『科学的地域環境人材(SciLets)』育成事業の第1回資格認定証授与式を開催しました。

学習要項の基準に従い、所定の科目を修了した方に対して、SciLetsアナリスト資格の認定証を駒田 美弘学長より授与しました。駒田学長は、「SciLetsを修了したらそれで終わりということではありません。今後も大学と交流して頂いて、三重県あるいは世界の環境改善に努めて頂ければと思います」と述べました。認定者は、金融機関勤務、電力会社勤務、設備管理会社勤務、複合サービス業勤務および本学学生の5名です。

また、同時にSciLetsエキスパートの所定の要件(研究実績)を満たした1名にSciLetsエキスパート資格の認定証を授与しました。

今後さらなるSciLets育成事業の活用および企業活動を通じて、認定者一人ひとりが環境活動を実践して頂くことを期待します。

**P11参照**



認定証授与式(H30.02.13)

声

VOICE

Vol.5

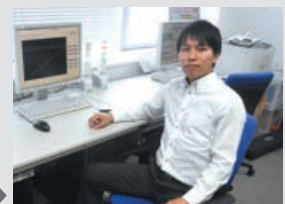
日本空調システム株式会社 | 原 季充

今回SciLets受講のお話を頂き、弊社がISO14001を取得していることや、私自身も環境問題、省エネルギー対策に関して興味があり、知識を増やすチャンスだと思ったのが受講のきっかけです。ビデオ講義ということで、いつでも自由に講義を受けることができるので、自宅での勉強は元より、通勤時間を利用することもでき、アナリスト資格を取得することができました。講義内容も知識がある分野はスムーズに頭に入りますが、初めて知る内容などは理解するまでに多少時間がかかります。何度かビデオを見直したりインターネットで調べたりするなどして、理解を深めていきました。

今、起きている環境問題は日本だけでなく全世界の問題でもあり、限られた方だけの活動ではあまり変わらないのが

現実だと思います。SciLetsのように環境に重きを置いた教材で、各分野の専門家による講義となっている素晴らしい教育ツールをもっとたくさんの人たちに広げてもらい、環境について皆で考え行動していけるようになればいいと思っています。そのためまずは三重大学から情報発信して頂き、SciLetsのような教材が全国に発信できる日を願っています。

弊社も環境問題には大変力を入れており、今回学んだことで気づかされたことや発見が多々ありましたので、その知識をこれからの仕事にも活かしたいと考えております。 **P11参照**



平成29年度の最高環境責任者(学長)の見直しは、平成30年3月14日に総括環境責任者および副総括環境責任

者(各部門長)からの報告事項をもとにシステムの見直し評価を実施しました。

### ■ 見直しの内容

#### 1.『環境方針』の見直し結果

環境方針は、このまま継続します。また、環境方針を解説した子供向けポスターと英語版の環境方針もあわせて引

き続き公開します。

#### 2.『実施計画一覧』(目的・目標)の見直し結果

平成29年度の環境目標は、エネルギーの使用に関して達成に苦慮しているものの、その他は計画通り達成できていると判断します。特に環境ISO学生委員会の活動では、「地域環境功労者表彰」を環境大臣から受賞したことはその成果を裏付けるものです。また、科学的地域環境人材(SciLets)育成事業に関しては、6月には三重県知事参加のもとSciLetsフォーラムも開催でき、さらに加納理事

が端緒となり、県内の行政・企業を訪問するなど精力的な活動から平成30年度は本事業の定着を期待します。平成30年度は、本年度の環境目標を継続すると共に、本学学生に「一歩先」を学ぶ機会として、新たな形で学外との関わりが持てる環境教育と環境研究の目標設定をして、全学部あげて三重大らしい環境教育と環境研究の深化に向けた実施計画の策定を期待します。

#### 3.運用管理の実施結果情報による見直し結果

平成29年度は、保管管理をしていたPCB廃棄物の廃棄処理の完了報告を受け、適切に実施ができていたことを確認しましたが、他大学からの事例にもある通り、学内に残存するPCB使用機器が存在しないか、改めて対象物の調査をして適正な対応を講じて下さい。順守義務に関して

は、引き続き、当該行政機関と調整し連携を取りながら、学内の特定施設(洗浄施設)の対応を適切に実施して下さい。さらに、法改正となった「水銀廃棄物」の保管・処理と、産業廃棄物の管理をする「電子マニフェスト」の導入を平成30年度から取り組んで下さい。

#### 4.その他インプット情報による見直し結果

本学のエネルギー使用について、平成29年度の削減実績は目標値を下回る結果となっています。これは省エネ設備の投資と省エネルギー活動が既に実施されエネルギー削減効果が出た後の平成27年度を基準年として、さらなる高い目標にチャレンジしていることが要因であると理解できます。しかし、本学のエネルギー使用は季節の寒暖の影響を受けやすいですが、これまで培った省エネルギーの活動を継続して、全学の構成員が知恵を振り絞り、目標達成に向けた活動の実施に強く期待します。また、キャンパス内の省エネ活動を意識することを前提として、学生と教職員が楽しみながら活動できるように、おしゃれなキャンパスという視点も取り入れることを期待します。

「科学的地域環境人材(SciLets)育成事業」は、目標数値には表せない学内に対する周知の活動と、県内の企業情勢を注視しながら、戦略的に社会人受講生となる対象も考える事業展開をすることを期待します。また、講義科目(カリキュラム)の実施数の目標数値もさることながら、質を高めることを目指して講義内容の充実を図る検討を始めて下さい。

本学の環境マネジメントシステムは全部局で定着しているが、ISO14001の新規格対応も3年目となる平成30年度は、ブラッシュアップを図るために、マニュアルなど「スリム化」の検討を始めて下さい。

昨年の見直し指示により平成29年度から国際環境教育研究センターのウェブページ閲覧者のアクセスデータの集計を行っているので、今後は集計結果をもとに、より閲覧者が本学の環境活動に関心を持ってもらう見せ方の工夫を検討して下さい。

継続して、長期展望の項目も検討して下さい。

- ◎「環境の文化が根付く大学」とは『どんな大学であるべきか』を検討する。
- ◎一部の学生だけでなく、全ての学生が環境マインドを高めることを目指す。
- ◎三重大のキャンパス環境だけがよくなることを目指すのではなく、地域(津市・三重県)や広い視野では世界の環境をよくするための成果を目指す。
- ◎環境の文化を身に付けた学生を育成し地域に就職させることを成果と捉えられないか方策を考える。

#### 5.EMSの変更の必要性についての処置および指示

環境の文化が根づく大学を目指して、総括環境責任者が中心となり、全部局で成果を感じることができるよう取り組みを期待します。



平成29年度 最高責任者による見直し結果の指示を出す駒田学長(H30.03.14)